

ダンス学習における即興表現の可能性：小学校体育科における「表現運動」の授業実践

越部, 清美 / HAYASHI, Sonoko / KOSHIBE, kiyomi / 林, 園子

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学スポーツ研究センター紀要 / 法政大学スポーツ研究センター紀要

(巻 / Volume)

35

(開始ページ / Start Page)

85

(終了ページ / End Page)

87

(発行年 / Year)

2017-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00013862>

ダンス学習における即興表現の可能性
— 小学校体育科における「表現運動」の授業実践 —

Possibility of Improvisational Expression in Learning of Dance

越 部 清 美 (法政大学社会学部)

Kiyomi Koshibe

林 園 子 (法政大学スポーツ健康学部)

Sonoko Hayashi

要旨

本研究の目的は、即興表現を意識した「表現運動」の3回の授業を児童たちがどのように受け止めているかを把握するものであった。本研究の対象は、東京都内に所在する小学校4年生児童27名であった。表現運動の授業を3回実施し、毎授業後に質問紙法調査を行い、統計的に処理した。また、収録した映像を観察し、考察を行った。その結果、初めて出会う子どもたちとの3回の授業において、自由に動くこと（自己開示）、他者を認める力がつくこと（自己承認）が確認され、即興表現の大いなる可能性が示唆された。

キーワード：児童、授業、表現運動、可能性

Key words : children, class, expressive movement, possibility

1. はじめに

2012年から「ダンス系」領域は、小学校第1学年から中学校第2学年まで必修となった。こうしたダンス系領域の必修化は、心身の解放や「身体表現を通じたコミュニケーション能力の育成（中央教育審議会答申・平成20年）」といったダンス系領域の特徴的な学びを保証する質的な高まりの可能性においても期待されるという¹⁾。

本研究者は、これまで多くの大学生の「ダンス・表現運動」の授業に関ってきたが、自由に踊ったり動きを創ることに対して、学生たちは不安に感じたりとまどっている様子が

見られた²⁾。そして、これは、小学校や中学校での経験不足・体験不足が原因なのではないかと推測し、「ダンス・表現運動」の授業を根本から見直してみたい、と考えた。

そして、これまで2012年以降、東京都内の小学校において「ダンス系」の授業実践研究を継続している^{3) 4) 5) 6)}。

今回は、これまでの授業実践をふまえた上で、初めて出会った児童たちが、3回の授業を受講し、特に即興表現を意識した「表現運動」の授業をどのように受けとめているかを把握するものである。今後も継続していく授業研究の基礎資料とする。

表1 3回の授業内容

1時間目	2時間目	3時間目
集 合 ・ 整 列 ・ 挨拶		
オリエンテーション	表現性のあるウォームアップ（含リズムダンス）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気のカベに“らくがき” ・ 人とカガミ ・ (グループに分かれ) 「太陽」を表現する ・ グループごとに発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな動きを体験する ・ 人とカガミ ・ 人とカゲ ・ 動きの工場 ・ 人間彫刻 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人とカゲ ・ おもちゃ箱 (体育館の中すべてが おもちゃ箱であり、 各自イメージを持って 即興で動く)
ま と め		

表2 「表現運動」に関する意識の変化

	質問項目	初回			最終回			T値	p	
		n	平均	SD	n	平均	SD			
自己開示	Q1 今日の授業でお友達と一緒に踊ることは楽しいと感じましたか	27	5.00	0.00	27	4.93	0.39	1.00	n.s	
	Q4 みんなの前で踊ることは恥ずかしくないですか	27	3.52	1.53	27	3.59	1.55	0.33	n.s	
	Q6 自分の思い通り(自由)に動くことができましたか	27	4.48	0.89	27	5.00	0.00	3.02	**	↑
自他承認	Q3 今日の授業でお友達の「すごいな」と思える動きをみつけることができましたか	26	4.46	0.91	26	4.92	0.39	2.74	*	↑
	Q8 お友達の動きをみることは楽しいですか	27	4.70	0.72	27	5.00	0.00	2.13	*	↑
動き・イメージ	Q5 今日の授業でいろいろな「もの」になりぎって踊ることは楽しかったですか	27	4.33	1.11	27	4.78	0.85	1.80	n.s	
	Q7 自分で動きを考えることは楽しいですか	27	4.41	0.93	27	4.70	0.72	1.28	n.s	
コミュニケーション	Q2 今日の授業でお友達と協力することができましたか	27	4.63	0.79	27	4.70	0.91	0.33	n.s	
	Q9 お友達が自分の動きのマネをしてくれることは楽しいですか	27	4.04	1.16	27	4.26	0.98	0.90	n.s	
	Q10 お友達の動きをマネすることは楽しいですか	27	4.19	1.15	27	4.70	0.72	2.05	n.s	

2. 方法

2016年6月に本研究者らが実施した。調査対象校は、東京都内に所在する公立小学校4年生27名である。表現運動の授業を3回(表1)実施し(2016年6月16日から6月30日まで述べ3回)、授業の様子をビデオカメラにより収録した。毎授業後に表現運動に関する質問紙法調査を行った。これは「表現運動」に関する4つのキーワード(自己開示、自他承認、動き・イメージ、コミュニケーション)を設定し、全部で10の質問項目を作成したものである。調査結果を統計的に処理した。できるだけ各児童の授業の受けとめ方を生の状態で調査するために、自由記述の部分を設け分析した。収録した映像を観察し、考察を行った。

3. 結果・考察

授業終了後、映像を通して対象者の様子を観察した結果、表現運動をほとんど経験していない対象者が不安な状態から少しずつ笑顔が増え次第に心身をのびのびと解放している姿が見られた。授業の回数が進むに従い、自主的に主体性をもって生き生きと動いている姿を多く観察することができた。3回目の最後の授業では、「即興表現」の場面において、「公認の遊び場」的要素が観察され、多様なイメージを持つ動きが観察された。さらに、人との関係性を自然な形で学ぶ機会になると思われる場面にも遭遇した。

1回目の自由記述では、「自分のことを表現する事が初めてだったので、色々わからない所があったけど、とっても楽しかった」と、とまどいながらも楽しかったと述べた児童がいたが「色々なはっそうイメージがうまれ楽しかった」や「自由におどれて楽しかった」と書く児童が多かった。3回目の自由記述では、「〇〇になっておもしろかった。楽しかった」「〇〇になって前ブリッジやそくてんをして楽しかった」と、さらに具体的なイメージでの記述が多く、自分のイメージを自在に表出して楽しんでいる様子が見られた。

それは、集計結果にも、反映されていた。自己開示の「Q6 自分の思い通り(自由)に動くことができましたか」の質問

項目に対し、有意差が認められた(表2)。また、自他承認の「Q3 今日の授業でお友達の「すごいな」と思える動きを見つめることができましたか」や「Q8 お友達の動きを見ることは楽しいですか」の質問項目で有意差が見られた(表2)。

小学校の現場では、運動会等のマスメディアでの活動をダンス学習とみなしているところもあるようで、学習指導要綱に準拠した指導があまりなされていないことを多く耳にする。教員対象の「表現運動の意義」に関する調査結果において、「表現」を理解できていない教員は、授業を実施していないことが多かった⁷⁾、との報告もある。

一方、朝日新聞社が全国258の小学校から有効回答を得た体育授業に関するアンケートでは、運動をよくする子どもとしない子どもの二極化について、77%が「感じる」と答え、誰もが楽しめる授業作りの大切さを自覚する声が多かった⁸⁾と述べている。そして、「運動が苦手な子ども表現では褒められる。体育で楽しい思いをし、学校外での運動につなげてもらえたらいい」と、小学校体育主任は述べた⁹⁾。

このような状況をふまえ、今回取り組んだ本研究者らの授業実践は、学習対象者に対しておおよそ有効であったのではないかと推察される。即興表現を意識した「表現運動」の授業の体験は、人が生きていくうえで数多く体験すべき重要な教育内容の1つに該当するものと確信している。「表現運動」の授業を担当する指導者は、学習対象者が心身ともにまるごとさらけ出せる(自己開放)学習環境を整える重要性を再確認した。

4. まとめ

本研究は、本研究者らによる小学校体育科における「表現運動」の授業実践を検証することであった。

初めて出会う子ども達との3回のみ授業の取り組みではあったが、本研究において、即興表現を意識した表現運動の教育的効果を実感し、大いなる可能性を感じる事ができた。特に、自由に動くことができたり、他者を認める力がついたように感じられた。

これからも、ひき続き、より魅力的な「表現運動」の授業に導くための授業実践を続けていく覚悟である。そして、経験不足の表現運動指導者にも有効な授業について提案していきたい。

文献

- 1) 文部科学省 (2013) 学校体育実技指導資料 第 9 集 表現運動系及びダンス指導の手引, 東洋館, 5
- 2) 越部清美 (2002) 大学体育におけるダンス・表現運動の授業に関する一考察, 法政大学体育研究センター紀要 第 20 号, 1 - 6
- 3) 越部清美・林園子 (2013) 身体表現の教育と人間形成に関する研究 (1), 日本体育学会第 64 回大会予稿集, 371
- 4) 越部清美・林園子 (2014) 身体表現の教育と人間形成に関する研究 (2), 日本体育学会 第 65 回大会予稿集, 315
- 5) 越部清美・林園子 (2015) 身体表現の教育と人間形成に関する研究 (3), 日本体育学会 第 66 回大会予稿集, 388
- 6) 越部清美・林園子 (2016) 身体表現の教育と人間形成に関する研究 (4), 日本体育学会 第 67 回大会予稿集, 295
- 7) 畑野裕子・久山素子 (2010) 小学校体育科における「表現運動」の授業実施に関する現状と「表現」の授業実施促進への課題—K 市立小学校教員を対象とした調査から— 児童教育学研究 第 29 号, 93 - 107
- 8) 朝日新聞 (2015.10.9) 子どもとスポーツ第 12 部 小学校体育の今, 25
- 9) 朝日新聞 (2015.10.9) 子どもとスポーツ第 12 部 小学校体育の今, 25